



秋川流域

2020.3.17

ジオの会通信

VOL. 3

秋川流域のジオサイト③



弁天山と弁天洞穴

網代の登山口から 20 分ほどの緩やかな登りで、弁天山の山頂(292m)に至ります。山頂からは、あきる台地の全貌、草花丘陵や加住丘陵、遠く狭山丘陵や新宿のビル群まで、素晴らしい眺望が得られます。地形の観察には、絶好のポイントになっています。

登山道は、五日市町層群の網代層の礫岩を踏みしめていきますが、途中断層を挟んで、山頂部は秩父帯のチャートの岩体が変わっていきます。

中腹には、珍しいチャート洞の弁天洞穴があり、伊奈石で作られた最古級の石像である大黒天像が安置されています。

〈目次〉

秋川流域のジオサイト③ 弁天洞穴と弁天山	1
活動報告・講演会(千葉達朗氏)報告 (青谷知己)	2
フィールドツアー報告 (池田美智子)	3
会員リレーエッセイ③ (竹之内正雄)	4
これからの行事予定 (事務局)	4

これまでの行事

- ・12月17日(火) シオの会 定例会
- ・1月5日(日) まいまい坂露頭 調査と化石採集
- ・1月7日(火) フィールドワーク 「飯能 - 丘陵の始まりを見る」
- ・1月21日(火) シオの会 定例会
- ・2月1日(土) 公開講演会 千葉達朗氏「赤色立体地図で見る秋川流域のおもしろさ」
- ・2月2日(日) 秋川流域E-ツーリズム キックオフイベント 於 五日市高校
- ・2月18日(火) シオの会 第2回総会、調査研究成果発表会
「養沢川上流ピリ窪沢に見られる海洋プレート層序」 鈴木、内山
「産業遺産 神谷マンガン鉱山 の時代を復元する」 田野倉、鈴木
- ・3月17日(火) シオの会 定例会(新型コロナウイルスの影響により流会)

講演会報告 千葉達朗氏「赤色立体地図で見る秋川流域のおもしろさ」

2月1日(土)、多くの宣伝を駆使して、公開講演会を開催しました。参加は一般67名、会員26名の合計93名で、「まほろばホール」はほぼ満席になりました。

赤色立体地図は近年、すっかりメジャーになり、プラタモリでもよく登場する地図です。千葉達朗氏はその地図の発明者であり、火山研究はもとより、防災の分野でも広く活躍されています。

講演では、自己紹介に始まり、赤色立体地図を発見した経緯、この地図のしくみと利点・活用法など、専門家ならではの、本質を突いた話に、参加者一同聞き入りました。

後半では、この地図を使って秋川流域を見るとどう見えるのかを、様々な方向や色分けを使って説明。特に、上流部の地質が地形に反映していること、台地の傾斜の特徴、秋川の台風災害はどうして起きたか、などより具体的な話は大変面白いものでした。新しい活用法も学べ、これから一層この地図を活用できるのではないかと思います。以下に、参加者の感想を一部紹介します。



○とてもよかったです。分かりやすかったです、わくわくするような内容でした。

○赤色立体地図のことがよく理解できました。赤色立体地図を持って、また青木ヶ原樹海に行きたくなりました。

○話し方がソフトで分かりやすかった。グーグルアースの使い方も教えていただきよかったです。

○地図読みが子供の頃から好きで、赤色地図を初めて見たときはびっくり。MRやCTを見た時の驚き。

○エキサイティングであり楽しかった。「多摩のあゆみ」の連載でよくわからなかったことが、だいぶ理解できました。

○秋川流域、よくわかった。私の住所の過去を調べたくなった。

○ハザードマップの改善が必要だと思いました。実際に歩いて知るためのアドバイスがあるとよかったです。

○シオの会の活動は毎回興味深い内容なので、これからも定期的に続けてください。

千葉さんとは学生のころからの付き合いで、快く講演を引き受けていただきました。講演前の空いた時間で断層露頭とサンドイッチ岩周辺を見てもらい、意見を交わす中で、その露頭の貴重さを絶賛いただきました。懇親会でも気さくな話が聞けて、楽しく有意義な1日になりました。

(青谷知己)

第2回フィールドワーク報告「飯能周辺一丘陵の始まりを見る」

(池田美智子)

2020年1月7日(火)第2回フィールドワークを飯能方面で実施、参加者17名でした。今回のフィールドワークの見どころは、以下の5点で、山地と平野の間にある、丘陵地の様子を観察することが目的でした。

- ①天覧山(197m)のチャートと石仏、地形展望
- ②飯能市立博物館の見学
- ③矢嵐(やおろし)テフラ・飯能層下部の礫層の観察
- ④飯能河原での石の観察(主に秩父帯の岩石)
- ⑤入間川河床の宇宙からも見える矢嵐凝灰岩(2.5Maのテフラ)の大露頭と石英閃緑岩の礫を含む礫層



東飯能駅に集合し、早速天覧山の登山口まで徒歩で進みました。知らない街並みを歩くのはとても興味深いもの。途中には、大谷石や房州石で作られた塀が見られ、その場で簡単な解説等々。あちらこちらで止まっては観察の連続で、当初計画よりだいぶ遅れて天覧山に到着。天覧山の頂上では、眼下の街並みや、遠くの丘陵を眺めました。

大きな石で火花を散らしチャートと確認。16羅漢の据えられたチャートの大きな岩など、じっくり観察。

次に、飯能市立博物館下の矢嵐テフラと飯能層下部の礫層の観察地へ移動。突然、眼前に美しい縞模様の壁が現れます。白い帯に見える火山灰の層、その下には飯能層の角礫、火山灰の上には丸い段丘礫がそれぞれ見られるという場所です。白い帯のように見えるのは短時間に火山灰が降り注ぎ、流水によってラミナ模様になったとの事。

下部の角礫層の堆積は260万年くらい、上部の円礫層の堆積時期は7~8万年前。火山灰を降らせた火山は全国規模のものではなく、近いところにあった火山ではないか・・・など解説を受けました。手触りを確かめ、写真に撮り、わんがけのために少しでも採集させてもらいました。



飯能市立博物館見学の後は飯能河原へ。ぱっと見た目ではチャートの割合が多い河原の印象でしたが、橄欖石の結晶の見られる玄武岩や蛇紋岩と思われる石も見つかり昼食を取りながら、石の話をして楽しいひと時を過ごしました。

その後は、入間川河床の宇宙からも見える矢嵐凝灰岩の大露頭へ移動。午前中に市民博物館下で見られた火山灰層と同じものであるとの事。川原ではひとときわ白く、美しいラミナ模様の地層を観察。地層表面のあちこちには、大きな軽石が見られ、所々に光る黒い粒(輝石)が入っていて、触るとざらっとして、ポロポロと崩れてしまいました。途中には直径80cmくらいのポットホールがあり、その壁面では、火山灰の堆積の様子がはっきりと見られました。

この河原での観察にて終了。

秋川流域にある、加住丘陵に草花丘陵。その北側に位置する加治丘陵。今回飯能方面のフィールドワークを行うことで、秋川流域の丘陵地への理解を深めることができたのではないかと思います。



カヤネズミと猪



秋川沿いの田んぼで稲作を初めて15年になる。稲刈りの時高さ80cm位のところに稲の葉を縦に細く引き裂いて球形に丸めたようなものを時々見かけた。はじめは鳥の巣かなと思ったが、それがカヤネズミの巣であることを後で知った。また畔に木枠の上に藁を積んで、片づけるときにカヤネズミが走り去るのを見た。木枠の内側にカヤネズミの巣があった。

脱穀機を動かしたらカヤネズミが飛び出してきたということもあった。日本でいちばん小さいネズミで、ススキやヨシなどの密生した水気のあるところに好んで生息するらしい。西多摩では、絶滅危惧種Ⅱ類に指定されているが、横沢の入りでは、調査報告がされている。また「全国カヤネズミネットワーク」もあり全国の営巣報告を集約している。

さて去年は、猪の被害は大変だった。サツマイモ、カボチャが全滅、種芋用のハツ頭も被害にあった。田んぼ沼田場（ぬたば）にされ、稲刈りを諦めた田んぼもあった。掛け干しの稲も食い散らされ、電柵で保護した。ここは本当に自然豊かなところだ。

さあ今年はどうするか？



これからの行事（詳細は 別紙の「ジオチラシ」をご覧ください）

- ・4月12日（日）第3回ジオガイドツアー
「昔の生活は雲上にあった」北秋川奥の小林家住宅と高所集落
- ・4月21日（火）ジオの会 定例会
ジオ講座 「チバニアンから何を学ぶのか」竹内英二氏
- ・5月 9日（土）第4回ジオガイドツアー
「枕と素麺の間—海から来た地層を山の中で見る」上養沢ピリ窪沢
- ・5月19日（火）ジオの会 定例会
ジオ講座 「ヒマラヤ造山運動の現場を歩く」鈴木肇氏・田野倉勝則氏
- ・6月16日（火）ジオの会 定例会
ジオ講座 「秋川流域のジオ学入門」青谷知己氏

このほかにも、5つの研究テーマに合わせた調査会や室内実習、化石採集なども行っています。また、ジオツアーに向けた事前研修も行っています。参加については、お問い合わせください。

会員・会費

秋川流域ジオの会では、随時会員を募集しています。秋川流域の大地の豊かさと面白さを学び、伝える活動にぜひご参加ください。現在の会員数は40名です。

☆年会費 2,000円（会計年度 1月～12月）

☆振込口座 西武信用金庫 五日市支店(024) 普通口座 1173684 秋川流域ジオの会 会計鈴木肇

秋川流域ジオの会通信 vol.3 2020年3月17日発行

発行 ; 秋川流域ジオの会

発行人 ; 内山孝男 編集事務局 ; 青谷知己

連絡先 ; 〒197-0814 あきる野市二宮 1300-97 池田美智子 t e l 080-5470-1588